当ページは、2019/10/03 現在、ほぼ作成終了です！（※推敲予定）

未知を遊ぶ！やましろフュージョンの提案！ ⇒「#とは？」

＜＜＜やましろ街道物見遊山・外伝（仮）／岩国市への提言＞＞＞

岩国市への提言（2019/2/22）

自転車遊び研究所
COURSE CREATE
Open-road, Closed-circuit, School, Media, Academy

《いわくに研究会》
〒740-0044
岩国市通津 1951-10
T.090-5573-9372
F.03-6368-4661
E. nqa50755@nifty.com

20190212 提言第1稿改／P1

毛利チャレンジNEXT ＋
サイクル県やまぐち"ファミリーサイクリング"Project
⇒ サークルナイン

「街道」「山道」「町の道」山口ぐるサイクリング！
「THT26」を核に人材交流と情報発信を再整備して地域貢献型マルチサイクリングクラブの基礎を作ろう！

[岩国市への提言]
山代・岩国・防長を
ゲーム旅で斬ってみた！？

◆関連資料

岩国市議会議員各位

向春の候、皆様には益々ご活躍のことと拝察申し上げます。
遅くなりましたが当選おめでとうございます。市政運営に期待します。

さて、山口きらめき財団の助成事業「毛利チャレンジ2018」の総括報告に合わせたご連絡になりましたが、本来なら5月の超大型連休に実施予定のゲーム旅企画への協力依頼として、昨年中に行うものでした。

その意味では"旬"を逃していますが、総括で見えてきた原点回帰への方向転換の要素を加えた方が、より深く広い課題に接することが出来ると、前向きに捉えています。それ故に、書き出しを「らかん高原MTBパーク」にするか、「岩国かるたドライブ里の駅巡り」にするか、「サイクル県やまぐち"ファミリーサイクリングクラブ"プロジェクト」にするか悩み、一連のゲーム旅のトレジャーポイント調査等で集めた、組み写真となりました。

その組み写真ですが、周防山代のエリア解説と、三代の道（周防北街道・県道134号線・国道434号線）の解説は、"やましろ羅漢スターリッジトレイル"の山道調査時等で利用する温泉施設で見かけたもので、周防北街道の石垣は今も整然と残っています。

また唐樋の解説看板は、「岩国市みんなの夢をはぐくむ交付金」を利用し、いわくにバス一日乗車券を利用して行った"くるっと岩国2016◇海岸往復コース"でも調査していて、今回の"毛利チャレンジ2018◇岩国通津散歩"の三択クイズにも採用した歴史的価値の高いものです。

そして、長門市の大寧寺と貴布禰神社は、「新・防長三白を探せ！」をキャッチコピーに実施した"防長かるたドライブ2017／米の回"で調査したもので、つまり'いわくに研究会'の最近の活動は、ゲーム旅等を通じた地域資源再発見とその利活用の提案であり、それをまずご理解頂ければと思います。

錦川沿いの国道１８７号線⇒狭くて見通しが悪く民家も迫っている⇒「石橋を叩いても自転車企画は行わない」という岩国市の判断は賢明！

高津川沿いの国道１８７号線⇒バイパスも整備され道幅も広く見通しも良い⇒それも遠因⇒益田市には空港滑走路も走るイベントサイクリングがある！？

若い錦川と長寿の高津川の間で起こった「河川争奪」⇒正に日本列島の成り立ちを表している⇒マイナーな地域資源でも自転車目線「ゲーム旅」なら再発見可能⇒しかしサイクリングの法的根拠が曖昧なため、言うは易く行うは難し！！

レースとツーリングの性格を持つ「ツーリングコンペティション」に分類される「ゲーム旅」⇒自転車で実施出来る走行環境が「サイクリング特区」⇒自転車市民権の獲得、自転車ソフトの標準化、次世代の移動手段の模索、などを目指す！

「サイクリング特区」には未知の「旬」の魅力がある⇒２月の提言に引き続きその考えも含む新たな提案「山代街道物見遊山外伝(仮)」⇒「年度」の壁も超える"融合"をテーマに改めて進めたい！！

20190212 提言第1稿改／P6

山代・岩国・防長をゲーム旅で斬ってみた！？
[岩国市への提言のまとめ]

❶石橋を叩いても渡らない岩国市と、サイクル県やまぐちとの連携と、Go羅漢ハイランドギャザリングについての提言
★「石橋を叩いても渡らない」は、ある意味正解です。多くのサイクリングイベントは、道路の目的外使用に当たり、問題も少なくありません。シンボルイベントがクローズドサーキットのように助成金へのアプローチは、過去に実施実績もあり、競技連盟の隠密調査もっている羅漢での、MTBイベントが最短距離と思われます。

❷里の駅の立体企画と、地域資源を巡る移動手段の確保と、参加者のモチベーションを上げる工夫についての提言
★イベント的にも、スタンプラリー的にも楽しめる「岩国かるたドライブ」は、買い物タスクというオプションもあり、点在する「里の駅」との相性は証明済みです。四季に合わせた展開を継続することで、地域資源のストックやブランド磨きが促進されます。ホームページ、イベント、媒体コラボ追体験と、立体企画を実現させましょう。

❸自転車活用推進計画の限界と、玉石混合の自転車ソフトと、スーパー先達で読み解く日本の実情についての提言
★国や県や自転車協会が自転車の利活用に注力するも、「走り出したら自己責任」や「時には参加者、時にはスタッフ」という欧米的な土壌が無ければ絵に描いた餅です。また、昭和からの忘れ物、マナーアップやインフラ整備といかだた餅もあります。市民の足を大胆に確保するサイクリング特区で未来を語りましょう！

合併で拡大した岩国市の福地化を有志で考える'いわくに研究会'の最近の活動は、「ゲーム旅」を用いた地域資源再発見企画の提案です。今回の提言、●羅漢高原でのMTB企画、●里の駅の立体企画、そして●市民の足を確保するサイクリング特区、この三つを結ぶのは、正に「ゲーム旅」に他なりません。

この遊びには「移動の自由」という、人類の大命題も含まれています。平成の大合併に含まれる少子高齢化対策、「コンパクトシティ」と類似もしていますが、微妙に異なってもいます。コンパクトシティも最適解ではなく、日本の原風景を捨てる覚悟も求められているからです。その原風景を含む地域資源に有機的に立体的にスポットを当て、様々な問題を浮かび上がらせる「ゲーム旅」で、岩国市の福地化を考えませんか？

「ゲーム旅」の応用企画として、「岩国～長門スペシャルサイクリング」、「特区シンボル・六日市トンネル往来」、「宮島～羅漢アイランドハイランド」、「コンパクトシティ自転車ロングタイムレンタル」、そして企画の裏方「地域貢献型マルチサイクリングクラブ」等を考えています。

国や県では広すぎる、市町では狭すぎる。そこで空からの水を分けた範囲を、錦川流域エリアとして、特区の可能性を考えたいと思います。その情報発信と人材交流の基地を1000mの高原に置き、皆様にもその風景を見て頂きたいと思います。

サイクリング特区に「ゲーム旅」を重ね移動手段を横断することで、道路インフラや公共移動や、それらの供給やメンテナンス、そして健康増進観光余暇活動ブランド磨きや人材育成、さらに雇用の創出も守備範囲とし、皆様の政治課題にシンクロするもので、引き出しに加えて頂ければ幸甚です。以上、宜しくお願い申し上げます。

2019年2月＊＊日
いわくに研究会代表／中野 敏
コースクリエイト山口&いわくに研究会／石丸英明
〒740-0044 岩国市通津 1951-10
TEL/090-5573-9372 FAX/03-6368-4661
E-mail/nqa50755@nifty.com

自転車遊び研究所
COURSE CREATE
Open-road, Closed-circuit, School, Media, Academy